

中和抗体薬による治療について

1 中和抗体薬による治療とは

- ✓ 新型コロナウイルス感染症の軽症の患者さんに対して重症化を防ぐことや、濃厚接触者等の発症を抑制することを目的とした治療です。
- ✓ 体調に異常がないことを確認しながら、20分から30分程度、点滴静脈注射を行います。
- ✓ 新型コロナウイルスに結合する抗体が、細胞に侵入するのを防ぎます。



2 東京都から医療機関を紹介する対象者は

- ✓ 重症化リスク因子*があり、発症日から5日以内の軽症の方となります。
- ✓ 息苦しさがあるなど（高流量酸素や人工呼吸器管理を要するなど）、重症の方は中和抗体薬の治療対象ではありません。
- ✓ 過去に注射剤などで重篤なアレルギー症状を起こしたことがある方、妊婦または妊娠している可能性のある方、授乳中の方は、治療を行う前に必ず医師や看護師にご相談ください。問診の結果、投与できない場合があります。

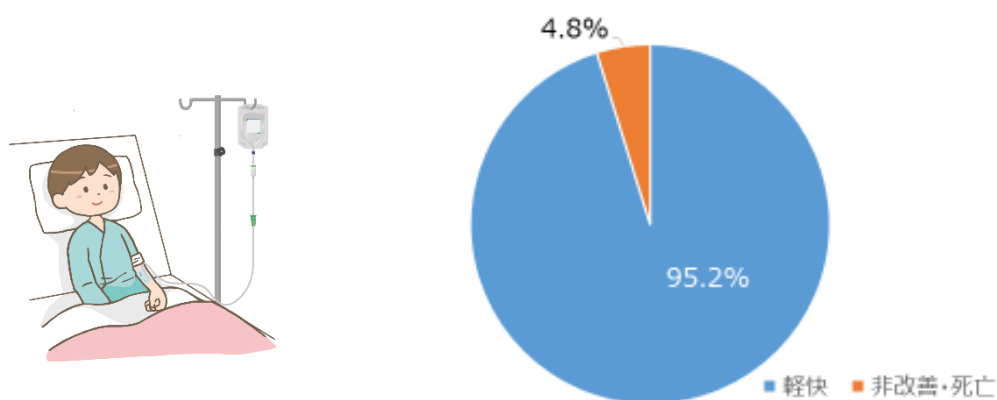


* 重症化リスク因子とは

年齢（ロナプリーブの場合 50 歳以上・ゼビュディの場合 55 歳以上）、心血管疾患、慢性肺疾患（喘息を含む。）、糖尿病、慢性腎疾患（透析を含む。）、慢性肝疾患、肥満、医師の判断に基づく免疫抑制状態など

3 投与の効果

✓ 都内でロナブリーブ投与後の経過について報告のあった 1,048 例のうち、投与から 14 日以上経過している 420 例を分析した結果、400 例で「軽快」となりました。（令和 3 年 9 月 3 日時点）



*「軽快」は、投与後に重い有害事象がなく、軽快と報告された数

*「非改善」は、投与後に酸素投与など悪化したケースや、軽快の報告がなく入院継続中の数

* 投与後の経過については、抗体カクテル療法以外の要素も含まれる。

東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議資料（令和3年9月9日）より

4 副作用

✓ 中和抗体薬を点滴したときにおこることがある体の反応で、過敏症やアレルギーのような症状があらわれます。

薬剤を点滴中または直後に起こる有害事象（インフュージョンリアクション）

- ・発熱 ・悪寒 ・吐き気 ・不整脈 ・胸痛 ・胸の不快感 ・力が入らない ・頭痛
- ・じんま疹 ・全身のかゆみ ・筋肉痛 ・喉の痛み など

重篤な過敏症

- ・全身のかゆみ ・じんま疹 ・皮膚の赤み ・ふらつき ・吐き気 ・嘔吐
- ・息苦しい ・冷汗が出る ・めまい ・顔面蒼白 ・手足が冷たくなる など

